

ができる。

#### 4. まとめ

台風8019号の赤外画像を例にとり、各種の強調方式を用いた画像処理の例を示した。そして台風の中心位置を決定する場合、従来の  $T_{BB}$  分布のみによる方式と比較して、特に眼がわからない場合に有効である事を示した。

ここで示したものの他に、赤外・可視の重ね合せ表示や時系列重ね合せ表示も可能である。そしてこれらの方式を併せて用いる事により、中心位置情報の他にも台風の発達や衰弱、進行方向、速度等の情報も得られる可能

性があるが、これらについては今後の課題としたい。

#### 文 献

- 宮沢勇・井石明宏, 1979: 姿勢データ処理, 気象衛星センター技術報告特別号 II-1, 46~49, 56-59.  
 原田知幸, 1980: 衛星画像を用いた雲位置の補正, 気象衛星センター技術報告, 第1号, 53-57.  
 中村健次・杉本清秋, 1980: VISSR 輝度分布の出力プログラムとその利用について, 測候時報, 47, 7-17.  
 高橋大知, 1981: アース・エッジ検出法による VIS-SR 画像の位置合わせについて, 気象衛星センター技術報告, 第3号, 55-68.



石田五郎・佐橋 謙 著

#### 岡山の天文気象

日本文教出版, 昭和55年6月刊,  
600円

最近はずぐれたいいわゆる地方出版物が多い。この本はその1つで、吉備の国岡山県の自然と文化のライブラリーとして発行されたものである。

内容は2人の著者が、それぞれ得意とする岡山県にまつわる天文と気象を述べている。

天文の部は、日本での天体観測の適地、岡山の地の利、人の利を明らかにすることを目的とし、そのため先ず天文の大先達、阿倍清明(1005年85歳で没)の岡山県鴨方町阿部山頂の碑の由来を述べ、最近の竹林寺山頂の岡山の天文台への道を簡潔に説明している。

続いて一般の人にもわかり易く、日本の天文学研究の大綱を説明し、更に望遠鏡の歴史、原理などに触れ、竹林寺天文台の188cm大反射望遠鏡(ハギワラ望遠鏡)のニュートン、カセグレン及びクーデ観測と91cm反射望遠鏡、太陽望遠鏡の概要を要領よく解説している。

一方、天文観測は己れにうち克つことがその極意と説き、更に望遠鏡の使用には常時の点検・修理・改造・開発が必要などと、著者の長年の経験と哲学がにじみ出て味わい深い。

又、天文と気象を結びつけるものとして、日本での最適観測地として岡山を選定した経緯を述べ、現段階のいわゆる光害の程度まで触れている。

気象の部は、新進気鋭の中堅学徒の著者が、岡山の気候の特徴を外国と比較し、又、日本の他地区と極めて要領よく比較し説明している。即ち、夏の日中は特に暑く、冬の早朝は特に寒い特徴があるが、これは、瀬戸内海沿岸の東部は晴天日数が他区より多いから昼は日射量が多く、夜は放射量が多いから当然の帰結でもある。

更に岡山県内の各地の詳しい気候を述べていて興味深い。地図(第1図、第2図)に地名を入れると他地区の読者は文中の説明が更によくわかり、なお一層局地気候の特徴を理解するであろう。

又、岡山県内の気象観測施設の紹介の他、気温・湿度・風・雨雪などの解説もあり親切である。なお第12図の0.014g/kgは14g/kgで、ミスプリントである。

その他、広戸風、夕なぎ、気象災害など、岡山県の気象現象をすみずみまでわかり易く述べている。

要するに、本書は岡山県の諸事情に精通している2人の学徒が、天文と気象をわかり易く述べた好著で、岡山県の方は勿論、他地区の方々にも一読をおすすめする文庫本である。

(坂上 務)